

## 第8回 第二期武蔵野市コミュニティ評価委員会

■日 時：平成17年11月10日（木）19：00～21：30

■会 場：市役所 603会議室

■出席委員：玉野委員長、小原副委員長、荒川委員、原委員、皆川委員、田中委員、檜山委員

■武蔵野市：事務局 市民活動センター所長ほか3名

### 1. 文化祭の視察について

11月12日（土）・19日（土）の文化祭視察のスケジュールを確認した。

### 2. 意見交換会について

#### （1）日時等について

日時・会場・参加コミュニティ協議会について、事務局が説明した。

#### （2）担当協議会について

各委員の意見交換会での担当コミュニティ協議会について、運営委員会傍聴、文化祭視察をした協議会を考慮し、決定した。

#### （3）意見交換の進め方と観点

【委員長】当日の進め方だが、最初に、第二期コミュニティ評価についての説明ということで、自己点検・評価表を受け取り、どうだったかを話す。意見交換の進め方だが、協議会ごとに時間を区切るか。

【事務局】最初に、参加している全部のコミュニティ協議会にお話しただいて、それから個々に具体的な話という形がいいのではないかな。

【委員長】いきなり評価委員会の方から協議会ごとに「この辺はどうなのか」と時間を区切ってやりとりし、共通する部分や同じ悩みが出てくると思うので、その辺を各協議会からアピールしてもらい、全体で意見交換するというやり方はいかがかな。

【委員】各協議会から出てきた意見について議論するよりも、自己点検・評価表の評価項目などについての意見を論議の中心にした方がいいのではないかな。

【委員長】今回は、評価方法についての検討ではなく、評価そのものの活動の報告会である。活動の内容を検討する方に時間をとった方がいいと思うが。評価表という道具を使って、各協議会の内容がどうかという一番重要な話ができなくなってしまう。

【委員】自己評価なので、「1. 十分である」と評価しているのは自信があるということだと思います。逆に低い評価を下している部分について、なぜそう思われたのかを聞くのもいいと思う。

【委員】自己点検・評価表の結果から各コミセンの問題点などを抽出して、話し合った方がいいのではないかなというのが、前回の話だったと思うが。

【委員長】評価委員会の方で「これを見てこういうふうに思うのだが、どうなのでしょうかな」

と協議会ごとに時間を区切って意見交換をした上で、全体の討議をするという手順の方がいいと思う。

また、自由回答でいろいろ書いていただいた。多分、自由記述で書かれたことが話されてしまうと思うので、質疑応答に時間がとれなくなってしまうのは残念である。ただ、各協議会が一言いいたいことがあるかどうか。

**【委員】**ここに掲げていないことを話せる時間があるといいなと役員会で出た。協議会からも自分たちが集計してみて、こういう結果が出たということで言いたいこともある。

**【委員長】**協議会としては、その都度コメントを返す形と後でまとめて話す形とではどちらがやりやすいのか。

**【委員】**質問されて、それに答える形の方が答えやすい。

**【委員長】**評価委員会としてはこちらの問いかけに答えてほしいので、最初に協議会ごとにやりとりをして、それから意見がある協議会に自由に発言していただくというような形でいいかと思う。

**【委員】**将来もこの第二期評価のやり方でやっていこうと考えているのか。

**【委員長】**これまでこうやってきたということは蓄積にはなるが、それを踏襲するかしないかはその時々々の評価委員会が決めればよいことだと思う。

**【委員】**法規の項目については当然のことと思うが、今回、かなりの項目数をとっているのではないか。そういった項目を削除していきなり、この評価委員会の中でやっていってもいいのではないのか。

それから、提出された自己点検・評価表の評価について、意見が言いづらい。自己評価なので、評価はそれぞれのコミセンの意向によるわけである。

**【委員長】**この評価の仕方自体の評価は、意見交換の終わった後の委員会でやればよいことだと思う。

それから、自己評価だから意見が言いにくいのではないかということについてだが、あくまで自己評価ではあるが、その自己点検・自己評価のお手伝いをするのが評価委員会の役割である。各協議会が、自分たちの活動のあり方を外部から言われて気がつくような形で触発されていくことが意義としてはある。評価そのものを評価するわけではなく、自己評価した活動で「では、どうしていけばいいのだろうか」ということを一緒に考える場だと考えればよいのではないかと思う。

その辺が、自己評価であると同時に評価委員がいるということの意味合いだろう。完全に自分たちだけで評価して、それで済んでいるのだったら、評価委員会は要らない。外部的な評価を受けながら、自分たちの活動を見直していく。そういう意味での意見交換会だと位置づけていただければと思う。

**【委員】**自己評価には違いないが、外部から見られている自分たちという立場で自己評価をするという縛りがあったので厳しく受けとめた。運営委員がひとりよがりでなかったかどうかを見直すという意味では非常に意味があった。

**【委員長】**では、今回の意見交換はそういう観点で行うことをご確認いただきたい。

次に進め方についてだが。

【事務局】最初に協議会ごとの意見交換となると、第二期評価の方法についての説明と自己点検・評価表についての全体的な感想は、委員長のご挨拶の中に入れていただき、委員の紹介が終わった後で、各協議会との意見交換に入っていく方がスムーズに行くのではないかと。

【委員長】進行の仕方だが、第二期のコミュニティ評価についての説明は委員長の挨拶の中に入れ、その後、協議会ごとに評価委員から幾つか質問やコメントをしながら質疑応答をする。コミュニティ協議会ごとの意見交換は10分程度で行なう。当日の進行の仕方については、そういう形にさせていただくということでご確認願う。

それでは、本日は評価表の結果について一つずつ見ていきたい。何を聞くか、何を聞いておくのがよいかという観点を、本日の打ち合わせで決めたい。

前回、議論で出た集計方法についてだが、集計的に平均値をとって標準化するという技術があるので、標準化した資料を見ても、あまり変わらないということがわかったので、ぜひ手元の評価表を見ながら議論していただきたい。

#### **(4) 各協議会との意見交換の観点**

\*各コミュニティ協議会から提出された「自己点検・評価表」を見ながら、各協議会との意見交換の観点について議論した。

【委員長】意見交換は問題点を探すよりは、ここはこういうところでうまくいっているというのを積極的に言ってもらい、相互に刺激し合えるような形を考えた方がいいのかなと思う。意見交換会は3回に分けて行なうので、かなり委員の方にはご負担をおかけするが、よろしくお願ひしたい。